２０１９年１０月６日　　　小池晃　やまたまや演説会

○皆さんこんにちは、県会議員の宮川えみ子です。お忙しい所、今日はこのようにたくさんの方においでいただきましてありがとうございました。心より御礼申し上げます。１１月１０日の県会議員選挙では必ず勝利して皆様の期待にお答したい、この決意をまず最初に申しあげます。どうぞよろしくお願いいたします。

○最初に、福島県議会の実態が象徴的に表れた、さる３日に終わった今期最後の県議会の最終日のお話をしたいと思います。

皆さんもテレビや新聞の報道で見られたかと思いますが、東京に避難している原発避難者の住宅追い出し裁判を県議会が可決したという事です。国の圧力に屈したやり方ですが、共産党議員団以外はこれに賛成しました。退席の方は１人いましたが。提訴された５世帯は、原発避難などが原因で体調を崩し働けない、都営住宅を１０回応募したが当選しない、帰る家がないなどの、個別の事情を全く無視してのやり方です。そもそも原発事故がなかったら起こりえないことで、話し合いで解決すべきです。

原発事故はもう終わったことにして、原発再稼働を進める安倍政権の思惑ですが、国・県のやり方に何でも賛成の議員でいいのかが問われると思います。

○一方では、復興の名のもとにイノベーションコースト構想などという大型事業が優先されて、この３年間で２３００億円も税金が使われています。

大型拠点施設をつくり道路等の関連公共施設を整備することが浜通りの復興と位置付けての推進ですが、南相馬市原町区の商工会議所のアンケートでは、この構想が復興に役立っているとの答えは僅か３％です。

○同じ復興でも、県民生活にかかわることはいずれも重大な立ち遅れで、子育て支援では、保育所等の待機児童率が全国１０位と悪く、高齢者支援では、１万人以上の特養ホームの待機者が一向に減少しません。６年後の介護職員充足率予測は全国最下位となる見込みです。

福島県は原発事故の結果、過疎化や少子化が他県に比べても急速に進んでいます。農産物の価格が上がらない、観光客数が特に教育旅行・修学旅行ですね、が戻らない、漁業の本格操業がまだできていない等、生業と県民支援が必要な時なのです。医師不足深刻で、特に浜通り・いわき市は危機的状況です。児童虐待の伸びは全国一ですし、健康悪化も重大です。

○このような状況の中、皆さんのお一人お一人の意見をよく聞いて、共産党は県議選で３つの政策を実現したいと訴えています。

１、若者・子育て支援。

２、高齢者社会でも住みやすい地域づくり・暮らし応援。

３、地域の中小商工業農業支援です。

・・・・・・・

この政策は、県予算のわずか３％でできます。

第二原発がやっと廃炉に。私が８年前、壇上で全議員に呼びかけて以来です。

堤防の高さや、原発労働者の条件求めています。

全県で５人以上・７人を目指していますが、６人になれば福祉の常任委員会に入れますし大きくなった力で、住民の運動とともに皆さんの願い実現の県政を実現できます。

安倍政権が消費税増税、暮らしを益々悪くしている、国にも県にもものの言える共産党議員の役割は重要。希望の持てる県政、そしてこの地域から国政を転換させるために全力を尽くします。

これからも身近な問題暮らしの問題しっかり受けて役立つ県議として、皆さんの声を政策にしてお返しできるように、頑張ります。どうかご支持を広げていただくよう、心からお願いして決意表明とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。どうぞよろしくお願いいたします。